

生涯学習やまがた



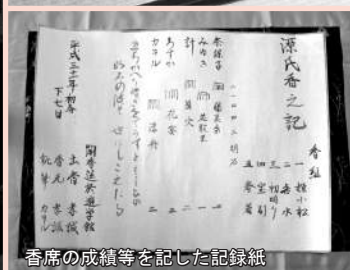
『香元』による点前



香を聞き 記憶する 香遊び「組香」



なごやかな茶話も楽しみの一つ



香席の成績等を記した記録紙



『執筆』による香席の記録



落ち着きのある和室

CONTENTS

- ② 特集
世代別の学びを考える－こども編－ 生涯の学びを支える土台づくり

- ⑤ このまちに注目！
小国町 白い森子ども体験教室 / 真室川町 まざれや体験塾

- ⑥ 事業報告
高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業

はじまったよ！学び合い支え合いの場
古民家玉手箱 / つどいの場にじ / ご・ざあ一れ広場

- ⑧ information
山形県生涯学習センター助成事業のご案内 / 遊学館ブックス最新刊『山形の生い立ち』発刊 / 洗心庵からのお知らせ / 県立図書館等大規模改修工事のお知らせ / 読者プレゼント

遊学の風景／遊学館 和室研修室 お香を楽しむ紅花会

古の香を聞きみやびとあそびの一時を

日本三大芸道の一つ「香道」は、香りを芸術にまで昇華させ精神性を追求する日本特有の文化。そんな古の香に魅かれ、宇野孝誠さん（現師範代）を中心に、平成14年末にサークル活動を開始。月に1度、お香を聞き分ける優雅なゲーム「組香」を楽しんでいます。深遠な和の文化を探索し、長年つどう皆さんはどこかはんなりとやわらかな雰囲気。水屋があり茶室研修としてもご利用いただける遊学館の和室。開放的な使いやすい間取りが好評で、活動当初からご利用いただいています。

特集

人生の土台となる子ども時代。発達段階を踏まえた子どもの学び育ちの特性とは？子どもの学び育ちを支えるポイントとは？生涯の学びの土台を築くためにも大切な子ども時代の学びのあり方について、中山芳一氏より寄稿していただきました。

「世代別の学びを考えるー子ども編ー」 生涯の学びを支える土台づくり」

岡山大学全学教育・学生支援機構准教授 中山 芳一氏
なかやま よしかず

子どもには発達段階がある

皆さんは、秩父神社（埼玉県）にある
藺田稔氏作の『親の心得』をご存知でしょうか？ここには「赤子には肌を離すな
幼児には手を離すな 子供には眼を離すな 若者には心を離すな」と記されています。見事なまでに簡潔かつ明確に、子どもの発達段階に応じた親（大人）のかかわり方が示されています。

一般的に子どもとは、18歳未満を指します。しかし、18年もの年数をすべてひとくくりにしては、それぞれの時期に子どもがどのように育っていくのか、そしてどのような大人からの支援が必要なのかわかりにくくなります。そこで、年齢によって発達段階が次の通り分けられています。0歳～1歳未満は乳児期、1歳

～6歳は幼児期、7歳～12歳は児童期、13歳以降は青年期となります。そうすると『親の心得』がぴったり重なってくるのがわかります。



生涯の発達段階

自己肯定感という土台を育む

まず、乳児期（赤子）のときにはできるだけ肌を離さず、ぬくもりを与え続けることが求められます。自分自身がここに存在しているかどうかばんやりしているときだから、肌を通じて伝わるぬくもりで安らぎを与えることは必要不可欠といえるでしょう。いわゆる「愛着関係（アタッチメント）」です。

次に、幼児期（幼児）になると子どもは次第に肌から離れていきます。しかし、危険に対する判断などはまだ難しいため、必要に応じて手を離さないことが求められます。また、先ほどの乳児期と併せて0歳から3～4歳の時期の子どもに、とりわけ大切に育ててもらいたいのが「自己肯定感」です。よく何かができて周囲から認められることで得られる自信と同様に与えられがちですが、ここでいう自己肯定感（または自己受容感）とは、別に何かができなかったとしても、自分自身の存在そのものを肯定できる感覚のことです。これこそが、まさに人が育っていく上で最も重要な土台となるのです。

それでは、0歳から3～4歳のときに、大人たち（特に親）はどのように子どもとかかわっていけばよいのでしょうか。ここで、逆説的に最もしてはいけないことを二つお伝えします。一つは、「ネグレク

ト（育児放棄）」などの虐待です。親が我が子は存在していないものとして無関心になるわけですから、子どもが自分の存在を肯定できるどころか「私なんていないほうがいいんだ」という感覚（自己否定感）を植え付けてしまいます。もう一つは、「過度な評価主義」に陥れることです。例えば、習い事で進級するなど、特定の何かができたときだけに我が子を猫かわいがりする。一方、できなかったときにはあからさまに冷やかな態度をとる。このようにかかわり続

中山 芳一氏 プロフィール



専門は教育方法学。1976年岡山県生まれ。大学生のためのキャリア教育に取り組むとともに、幼児から小中学生、高校生たちまで、各世代の子どもたちが非認知能力やメタ認知能力を向上できるように尽力している。さらに、社会人を対象としたリカレント教育、全国各地の産学官民の諸機関と協働した教育プログラム開発にも多数関与。9年間没頭した学童保育現場での実践経験から、「実践ありきの研究」をモットーにしている。

けると、「私はでき続けなければならぬんだ」という感覚を植え付けてしまいます。そんな子どもがどこかのタイミングで失敗を余儀なくされたとき、その子の心はポキッと折れてしまいかねません。だからこそ、特に0歳から3〜4歳の時期には、無条件でその子を受容してあげたいものです。肌と肌による愛着関係も呼びかけに応じる呼応関係も、無条件でやってあげてください。

大人へ向かい始める小学生

さて、『親の心得』に戻りましょう。手は離すけれど、眼を離さない児童期(子供)は、小学生の時期そのものです。幼児後半から周囲のことが見え始め、気の合う相手とそうでない相手を区別し始めたり、自分とほかの人とを比較して自分自身の現状(何ができて、何ができないのか)を確かめ始めたりします。そして、小学生中学年(9〜10歳)の時期になると大人と心理的距離をとり、子ども同士の時間を好むようになります。大人から言われたからやるのではなく、自分(たち)でルールをつくり始めます。また、これまで普通にやってきたことにどんな意味があるのかを考え、自分の中で納得をつくり出そうと

もします。そのため、大人からの一方的なルールや押しつけに対して反発することも多分に増え、大人からは子どもが「生意氣」に見えるようにもなります。このような時期は「ギャングエイジ」と呼ばれ、大人たちの中で何となくネガティブな印象を持たれがちです。しかし、これは大人が、幼児寄りの子どものままだと認識していることが原因です。子どもから大人へと大きな一歩を踏み出そうとしているとても素晴らしい時期としてとらえたいものです。

ちなみに、このギャングエイジ以降、いわゆる思考力が急速に大人へ近づき始めます。例えば、つじつまを合わせられるよう考えたり(論理的思考)、現実の根拠に基づいて考えたり(科学的思考)することができ始めるのです。そのため、大人の言動のズレには違和感を覚えてしまいます。低学年までは通用していたであろう「だましました」も通用しなくなり、まだまだ子どもと思っている内に、子どもは大人になり始めていきますので、認識には注意が必要です。

そして、いよいよ思春期へ…

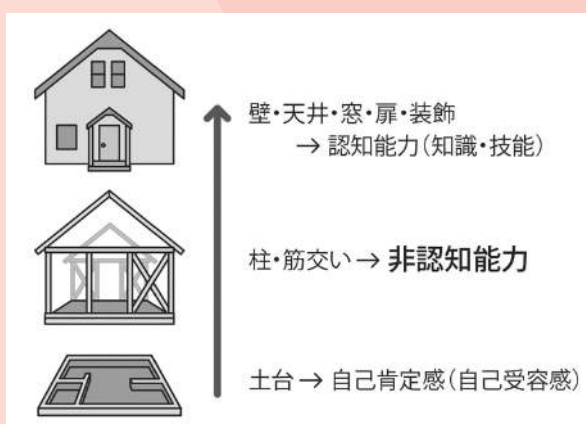
小学生高学年から中学生以降の青年期(若者)へと進んでいきます。小学

生の時期(特に中学年以降)には、子どもから大人へと変わり始めるため、手は離してもまだ眼は離せませんでした。しかし、中学生以降になると思春期を経て心身共に大人になろうとしています。次第に眼も離せるようになりますが心は離さずに、人格者同士としてかわっていくことが求められます。もちろん、思春期には子ども自身の中に心と体のズレや思い描く自分と現実の自分とのズレなどから不安定になります。この期間、とりわけ距離感が近い親からの言葉かけは通じにくく、反抗することが増えてくるでしょう。親(大人)としては、この不安定があるからこの先の安定につながる、そしていつまでも不安定が続くものではないことを念頭に置いて、過度な干渉はせずにできるだけ意思を尊重する、全面的な放任はせずに関心の糸は切らない…ことを大切にしていきたいものです。

非認知能力という柱・筋交い

さて、ここまでは『親の心得』を参考に、18歳を迎えるまでの子どもの時期を4つの発達段階ごとにとらえてきました。そこで、人がそれぞれの発達段階を経て育っていく様子を「家」にたとえてみ

ると、このようなイメージになります。



非認知能力は人間の柱や筋交い

0歳から3〜4歳の時期にとりわけ育まれる自己肯定感(自己受容感)は家の土台となり、様々な知識や技能などは家の外壁や屋根、窓や装飾となります。すると、土台と外壁や屋根などの間で家を支えてくれる柱や筋交いは一体何でしょうか?近年この柱や筋交いに該当するものは「非認知能力」と総称されるようになりました。一方で、知識や技能などは「認知能力」と総称されています。テストなどで数値(点数)化できるような力が認知能力で、自制心や忍耐力、自信や意欲、思いやりや協調

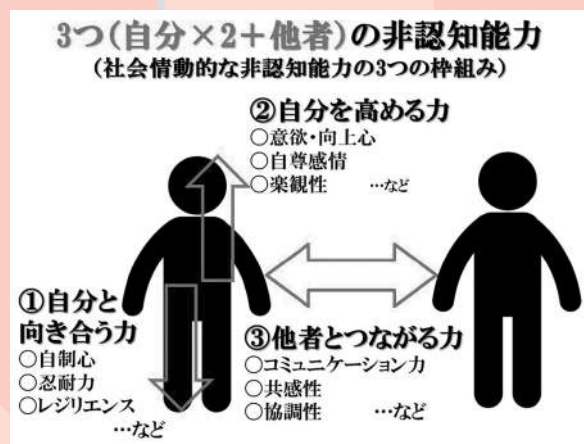
性など数値化できない(できにくい)力が非認知能力です。この非認知能力は、2000年にノーベル経済学賞を受賞したジームス・J・ヘックマン氏が提唱してから、我が国だけでなく世界各国で注目を集めています。

いま、AI(人工知能)との共存が求められる時代となり、私たちの働き方が大きく変化しようとしています。また、「人生100年時代」を迎え、私たちの生き方も大きく変わろうとしています。このような時代を生きる私たち大人も、そして子どもたちも知識や技能のような認知能力を高めるだけでなく、非認知能力も高めていくことが改めて重視され始めているのです。先ほどの家のイメージでは、土台と柱・筋交いがしっかりとっていないと、いくら外見だけよく見せてもろい家になってしまいます。人が人として育ち、人生を生き抜くためには、非認知能力を獲得・向上していかなければならないのです。

非認知能力を育むために

ここで非認知能力を3つの枠組みで整理してみましょう。「自分と向き合う力」には、自制心や忍耐力、レジリエンス(回復力)などが含まれます。「自分を

高める力」には、意欲・向上心や自尊心、樂觀性などが含まれます。「他者につながる力」として、コミュニケーションや共感性、協調性などが含まれます。自らの感情をコントロールでき、意欲を持つて臨み、他者と支え合い励まし合うことができれば、認知能力も高められることは容易に想像できるでしょう。



ところで、この非認知能力伸び盛りの発達段階にある子どもにも、大人はどのような手助けができるのでしょうか？ 実は、この手助けには学習塾で行われるような特別なプログラムを必要とはしないのです。例えば、幼児期から児童期

にかけては遊びの世界に没頭するだけでも非認知能力は獲得・向上できるといわれています。大人が子どもを自分の所有物のように何かをさせるのではなく、まずは子どもが自らの意思で自発的にやりたいことをできるように手助けしていくことが大切です。また、ひっきりなしにあれこれさせるのではなく、ぼーっとすることも含めた「余暇」の時間を子どもに保障してあげることも大切です。

そして、子どもが何かに取り組んだとき、できたかできなかったかという結果にばかり目を向けるのではなく、そこまでのプロセスをしっかりから見取ってあげたいものです。例えば、その子がどれだけ気持ちを落ち着かせるために自分と向き合おうとしたのか、どれだけ意欲を持って自分を高めようとしたのか、そして、どれだけほかの人たちとつながろうとしたのか…単に「がんばったね」とほめるのではなく、そのがんばった中身をかみ砕いてあげられるとよいですね。

教育が、社会が、大人たちが変わる！

しかし、私たち大人はどうしても認知能力や結果を重視してしまいがちです。認知能力は、結果としても見えやす

くわかりやすいですし、何と言っても入試に直接反映されやすいですから…。そのため、子どもたちの非認知能力を重視していくためには、教育そのものが変わっていくことも同時に求められます。ちなみに、2017年3月に告示された新しい学習指導要領(文部科学省)では、「生きる力」の中に知識・技能、思考力・判断力・表現力などに加えて、「学びに向かう力・人間性等」といった非認知的な要素も明確に位置づけられました。さらに文部科学省は、内閣府による「Society5.0(超スマート社会)」^{※1}とも連動して、「狭義の学力」だけでなく「主体性や協働性」などの非認知的な面も入学者選抜で問われるべきと提起^{※2}しました。学校教育も、これからの時代に向けて変わろうとしていることがうかがえます。

私たちは、このような時代に突入したわけですから、だからこそ、いまを生き、これからを生き抜く子どもたちのために、私たち大人がまずは認識を変え、必要な時期に必要な力を子どもたちが身に付けられる手助けをしていきたいものです。いや、それ以前に私たち大人が、まずは変わらなければいけないのかもしれないですね。大人が変われば、子どもも変わるのであります。

引用:拙著「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」2018、東京書籍

※1 内閣府「第5期科学技術基本計画」(2016年)で狩猟社会・農耕社会・工業社会・情報社会に続く新たな社会として提唱された。

※2 文部科学省「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」2018年

このまちに 注目!

地域の取り組みを
紹介します

小国町 小国町教育委員会 白い森子ども体験教室「森の楽校」

『ブナの森のいきもの探検隊』

■ 内容 ■

毎年6月、小国町小玉川の森林セラピー基地「ブナの森^{ぬくみだいら}温身平」で、町内の小学生親子を対象に開催している自然体験イベントです。



新緑まばゆいブナの森探検!

メインロード自然散策のほか、5年ほど前から町内のNPO法人ここ掘れ和ん話ん探検隊と連携し、「温身の池」で両生類の卵塊数調査を実施しています。日本だけに住む貴重ないきものであるモリアオガエルや、絶滅の危機にあるクロサンショウウオ、トウホクサンショウウオの卵を子どもたちと一緒に観察して生態系の調査結果をまとめることで、多くのいきものたちが育つことができる環境を大切にする気持ちを育みます。

■ ここが大変 ■

モリアオガエルは森の忍者!時期をのがすと、その姿を見るのが難しいいきものです。調査の時期が例年より2週間遅れたこと、降水量が少なかったことから、調査を実施している「温身の池」の状況が心配されました。

■ ここがうまくいった ■

ブナの森には、たくさんの命が生きています。ガイドとともに、森の声を聴きながら散策を楽しむ時間を設けたところ、子どもたちが興味のある虫や植物の名前を尋ね、図鑑を確認しながら一緒に考える様子が見られました。

参加者
Voice

エゾハルゼミが参加者の帽子にとまったのを見つけて、ブローチみたいだと思いました。モリアオガエルの卵の泡の中で動く、たくさんのおたまじゃくしを見ることができました。(小学生男子)

真室川町 差首鍋地区生涯学習センターまざれや「まざれや体験塾 中村湿原観察会」

『日本一小さなトンボに出会える観察会』

■ 内容 ■

地域の自然観察を通じた仲間づくりをねらいに、中村湿原観察を行っています。当初は小学生親子を対象としていましたが、「まざれや」から歩いて行けることもあり幼児から一般の方まで対象者を広げ、毎年6月・8月の季節の花に合わせて行っています。6月はトキソウとハッチョウトンボ、モリアオガエル。8月はサギソウとハッチョウトンボ、モウセンゴケ(食虫植物)などが観察できます。特にハッチョウトンボは羽根を広げても一円玉の中に入るほど小さなトンボ。草刈りや案内など湿原の管理は地区住民ボランティア「中村湿原を守る会」により行われています。



湿原特有の貴重ないきものを観察!

この他、「まざれや」では年間では体験塾・展示などを20回ほど行っています。

■ ここが大変 ■

夏植物は、その年の雪量や天候に左右されやすく、少ししか咲かない年もあるため、参加者の期待を損なわないよう別メニューも考えて準備をしています。

■ ここがうまくいった ■

8月も現地まで歩いての観察を予定していましたが、熱中症対策としてバスを利用。時間的な余裕が生まれ、結果として新たな観察地の開拓ができ、イベントにさらなる幅をもたせられました。

参加者
Voice

湿原でサギソウやハッチョウトンボの観察をしたり、途中の歩道での植物や食べられるものを探したり、象獅子では伝説の由来を聞き、不動明王の滝では魚とりと、本当に楽しいことばかりでした。(小学生男子)

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、地域住民が支え合う仕組みづくりと元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍することが必要です。今年度も必要性を学ぶ「支え合いの仕組みづくりを考えるフォーラム」(7月・2会場)、実践的に居場所づくりを学ぶ「支え合いの地域づくり担い手養成講座」(8月～10月・現地視察・トライアル事業を含む全5回)、高齢者などのニーズの高い移動支援や食事支援を学ぶ「生活支援活動ステップアップ講座」(10月・全3回×2分野)、養成講座受講生がその後の活動成果を報告して交流する「フォローアップ研修会」(3月・1回)、生活支援コーディネーターのスキルアップを図る研修会(12月・2日間)を開催。

平成27年度から始まった本事業、これまでフォーラムには延べ650名以上、養成講座には延べ150名以上のご参加をいただきました。当初は、支え合いの地域づくりとして何をすればよいかわからないという受講生も多くいらっしゃいましたが、今では「活動を始めるため情報収集している」「始めて

いて活動の幅を広げたい」という受講生が増えています。そんな受講生のため特に大切にしていることは、自分たち



トライアルの計画を練っている受講生

で高齢者の居場所づくりの企画をしてもらうことで。各地から集まった受講生がグループになり、短期間で企画・広報・開催・振り返りを行う養成講座のトライアル事業。企画をまとめあげることは簡単ではありませんが、多様な考えやノウハウを学べ、やり遂げた自信や受講生同士の絆が育まれます。楽しさややりがいを感じ、活動に踏み出すきっかけにもなっているようです。

実際に各地の受講生から活動を始めたとの嬉しい報告を多数お寄せいただいておりますが、今回はそのうちの3つの居場所「古民家玉手箱」「つどいの場にじ」「ご・ざあーれ広場」をご紹介します!

『こころとからだのオアシス 古民家玉手箱オープン!』

みんなの居場所「古民家玉手箱」(酒田市)

はじまったよ!
学び合い支え合いの場

所在地: 酒田市黒森乙 212-3
連絡先: 090-7521-5143 (小林)



代表の小林さん

皆さんからの応援、差し入れが本当に嬉しくありがたい!

地域は違えども講座メンバーのあたたかい応援が力に。



クリスマスコンサートに聴き入る皆さん

旦那さんの実家が長年空き家で気がかりだった小林さん。平成29年度支え合いの担い手養成講座を受講して居場所として活用したいと思うように。100年前の建物で補修資金が課題でしたが、紅花ふれあい基金の助成金を受けられることに!酒田市社会福祉協議会やNPO法人ぼらんとすの応援、ボランティア仲間の協力、さまざまな繋がりで大工仕事・壁補修・備品調達など手伝ってもらい、元同僚や同級生、ボランティア仲間と、平成30年10月に「古民家玉手箱」をオープン!

誰でも好きな時間に自由に過ごせるオアシスとして、平日週2回の活動、月1回の季節イベントを開催。親子でも孫と一緒に楽しめるキッズルームもあります。男性も多く、特技や趣味を活かして和気あいあいと活動中。春には裏の空き地をどう使おうかと皆でアイデアを膨らませています。笑顔、元気、生きがいの詰まった古民家玉手箱で、あなたの夢も膨らませてみませんか?

『いろんな人の架け橋に「つどいの場にじ」誕生！』

支えあう地域づくりなないろの会（白鷹町）

はじまったよ！
学び合い支え合いの場

所在地：白鷹町大字鮎貝3235

連絡先：0238-85-0143（平泉）



書初め・パッチワークを楽しむ皆さん

退職後の脳トレとして平成28年度支え合いの担い手養成講座を受講した佐竹さん。講座で意気投合したメンバーとつくりあげたトライアル事業が楽しく、継続して活動したいと思うように。町内の同じ志を持つ仲間を募り、平成29年6月に“支えあう地域づくりなないろの会”を立ち上げました。空家を口コミで探し、廃校から備品をもらい、県の福祉型小さな拠点づくり事業や町の通所型サービスBの補助金を受けて「つどいの場にじ」が平成30年度4月に誕生しました！

ものおじしないで
積極的に交渉する
ことが大事

代表の佐竹さん



なないろの会の素敵な仲間たち

講座メンバーは
私の宝！女子会は
今も続いています！

まずは無理せず週2回の体操や趣味の活動、お茶のみや食事会をとおして、誰もが楽しく交流できる場づくりを目指しています。生協の移動販売車を呼んだり、学童の子ども達との交流食事会を企画したり、有償ボランティアを考える研修会を行ったり、活動の幅も少しずつ広がっています。集う皆さんのやりたいことをかなえる場「にじ」は地域の皆さんの大切な居場所になっているとか！ぜひのんびり、ゆ〜ったり、やさしい時間を過ごして「にじ」に、ごんざえ！

『自分たちが楽しめてくつろげる居場所を！』

NPO法人ご・ざあーれ広場（河北町）

はじまったよ！
学び合い支え合いの場

所在地：河北町谷地甲97-3

連絡先：0237-84-1415（小松）



趣味の手芸を楽しむ皆さん 作品を手にパチリ

退職後に同級生と詐欺防止の寸劇サークル“SKITかほく”を始めた古澤さん。高齢者と関わる機会が多い中、メンバーの提案で居場所づくりを模索。古澤さん海野さんを中心に行政とのやりとりを、松田さんなどの女性メンバーが情報収集や広報を開始。県の福祉型小さな拠点づくり事業を受けて、女性・青少年センターでの6か月週2回の居場所づくりに並行して準備を進め、平成30年4月“NPO法人ご・ざあーれ広場”として「ご・ざあーれ広場」をスタートしました。

ここでは
自分らしさを発揮して
皆いきいきと返りますよ！養成講座や
ステップアップ講座は
情報収集に活用して
います！仲良し同級生トリオ
左から古澤理事長、松田さん、海野副理事長頼もしい
常駐スタッフ小松さん

河北町の通所型サービスB運営業務委託を受けて、専属スタッフ1名を配置。平日自由に出入りできるようにしました。集う皆さんの特技を活かした書道会、手芸サークルのほか、英会話教室やアロマ教室などさまざまなイベントも。年1回の文化祭は互いの趣味特技を発見できる貴重な機会とか。広い座敷とセンス良いカフェルーム、女性にも男性にも居心地のよい「ご・ざあーれ広場」には、同級生仲間のスタッフが発信するほがらかな雰囲気広がっています。皆さまどうぞ、ご・ざあーれ！

【山形県生涯学習センターの助成事業のご案内】

2019年度に予定している各助成事業は以下のとおりです。詳細は3月下旬頃、財団HPでお知らせいたします。

助成事業	青少年地域学習活動支援事業	「山形学」地域連携講座支援事業	地域生涯学習支援事業
対象	関係者向け	一般・関係者向け	一般・関係者向け
特徴	県内高校の課外活動として行われる地域学習や地域づくり活動を支援します！	県内の地域学や地域づくり活動を支援するため、県民を対象とする地域に関する体系的な講座に助成を行います！	県内市町村や生涯学習施設、芸術・文化施設、高等教育機関、NPO法人等が実施する、県民を対象とした生涯学習活動を支援します！
募集期間	2019年4月～（締切未定）		
事業実施期間	2019年4月1日～2020年3月31日まで		
助成金額	助成対象経費又は5万円のいずれか低い額	助成対象経費の3分の2（市町村・3年以上継続で助成を受けている団体は2分の1）又は20万円のいずれか低い額	
助成対象経費	印刷費・通信運搬費・消耗品費・賃借料など	謝金・旅費・賃借料・印刷製本費・消耗品費など	

遊学館ブックス最新刊 『山形の生い立ち』発刊！

一般向け

平成29年度「山形学」フォーラム・講座（5回）の記録集。地理・地形に焦点をあて、山形の古の姿や自然災害、最上川を取り巻く歴史と文化、繁栄した城下町や近代都市としての県都山形の姿などから、山形の新たな魅力を掘り起こしました。



県生涯学習センター（遊学館3階）・文翔館・洗心庵、八文字屋、戸田書店山形店、宮脇書店（天童店・清水屋店）、山形大学生協、おいしい山形プラザ（東京都）、Amazonで販売中。お近くの公立図書館でもご覧いただけます。

定価1,080円 B6版 268頁

編集
後記

学力、人間関係、将来…わが子の悩みは尽きません。でもなにより今日も楽しかった美味しかった頑張れたという毎日をともにつむぐ親でありたい。今号の特集では、私たち大人（親）が子どもの遊びや余暇を大事にしてあげること、「やらせる」ではなく「やりたい」を支えてあげること、結果より過程を振り返る大切さなど、子どもの学びや育ちを伸ばすヒントをたくさんいただきました。普段の生活に活かしていきたいと思います（A）

洗心庵からのお知らせ 第5回写真コンテスト入賞作品展

一般向け

入賞者20名が決定され、下記日程で入賞作品展を開催します。

日時 3月16日（土）～3月30日（土）
時間 9時～17時
場所 洗心庵 多目的ホール

一県立図書館等大規模改修工事のお知らせ一

平成30年度から31年度にかけて、図書館を中心とした改修工事が行われています。ご利用の皆様には大変ご不便をおかけしております。現在、下記のとおり研修室の貸館を制限して行っております。（変更等はホームページでお知らせします。）

対象期間：平成31年2月12日（火）～当分の間
土曜日と日曜日に限り貸館（毎月第3日曜日は休館日）
対象施設：第1研修室、和室

※工事進捗状況等により、貸館を中止する場合があります。工事期間中のため、騒音や振動、不意の停電等が発生することもあります。ご理解のうえ、ご利用下さい。

一生涯学習センターのご利用について一

- 館内1・2階が工事エリアとなり、正面東側の臨時入口からの出入りとなります。構内への車の乗り入れはできません。
- 総合受付がなくなりますのでご利用の方は3階事務室へ直接お越しください。県営駐車場の割引手続きも3階事務室で行います。入退館時にお立ち寄りください。
- 「情報提供コーナー」は3階へ移動いたしました。

※工事期間中は仮設等のためバリアフリー対応等不十分になりご迷惑をおかけします。何かございましたら、3階事務室にご連絡ください。

編集発行 （公財）山形県生涯学習文化財団 平成31年2月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36〔遊学館〕
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp
URL <http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

■開館時間 9:00～21:00〔夜間利用が無い場合は19:00まで〕

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵〔山形県生涯学習センター分館〕 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

■開館時間 9:00～21:00〔夜間利用が無い場合は19:00まで〕

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

🎁 読者プレゼント 🎁

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊『山形の生い立ち』（1,080円）をプレゼント！左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についての感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・FAXでご応募ください！締め切りは3月末です。